

## ブル材料

### 1. メルク (MRK)

医薬品大手、メルクが 24 日寄り前業績発表。第 2 四半期 (4 - 6 月) 決算は、抗アレルギー薬と心臓病薬の処方が増し、コレステロール降下剤「ゾコーラ」の売上高減少を補った。メルクは同時に、今年通期の 1 株利益見通しを 2.10 - 2.24 ドルと、4 月 20 日に示した従来予想 (2.02 - 2.16 ドル) から上方修正した。前年通期の 1 株利益は 2.10 ドルだった。

#### 第 2 四半期 (4 - 6 月期) 実績

売上高...57 億 7000 万ドル (コンセンサス予想は 54 億 6500 万ドル)  
 1 株当たり利益...0.73 ドル (コンセンサス予想は 0.65 ドル)  
 (主要薬品売上高)  
 Zocor...9 億 9000 万ドル (14%減)  
 Cingular...9 億 5000 万ドル (30%増)  
 Zetia/Vytorin...9 億 7300 万ドル (91%増)  
 Cozaar/Hyzaar...7 億 8400 万ドル (変わらず)  
 Fosamax...8 億 2100 万ドル (4%減)

#### 2006 年通期ベース・ガイダンス

1 株当たり利益...2.40 ~ 2.48 ドル (コンセンサス予想は 2.40 ドル)

### 2. シェーリング・ブラウ (SGP)

米製薬大手シェーリング・ブラウが 24 日寄り前業績発表。第 2 四半期 (4 - 6 月) の売上高は前年同期比 11%増の 28 億ドル、黒字額は 2 億 5900 万ドル (1 株当たり 16 セント)。一部経費を除いた利益は 3 億 7500 万ドル (1 株当たり 25 セント) となり、予想 (17 セント) を大きく上回った。また、予想売上高は 26 億 4500 万ドルだった。

### 3. インテル (INTC)

インテルは 24 日、デスクトップ型パソコン向け新プロセッサ「コア 2 デュオ」を 27 日に発表すると明らかにした。AMD からの市場シェア奪還を狙う。「ペンティアム 4」に取って代わるコア 2 デュオの発売準備を前倒して行ってきた。コア 2 デュオは、インテルの従来 of MPU の設計を一新したもので、効率が良く、処理能力も高い。

#### 4. ティファニー (TIF)

JMP 証券が投資判断を引き上げた。以下の通り。

同社の投資判断を“マーケット・パフォーマンス”から“アウトパフォーマンス”に引き上げ、目標か価格を 37 ドルとする。最近の株価下落は、長期的な視野で見た場合、絶好の買い機会を与えている。この下落の背景には、直近四半期での既存店売上とマクロ的な懸念によるものであろう。しかし、同社は富裕層をターゲットとしており、燃料価格の上昇などによる悪影響は少ないであろう。

#### 5. ATI テクノロジーズ (ATYT)

マイクロプロセッサ世界 2 位のアドバンスト・マイクロ・デバイシズ (AMD) は、コンピューターグラフィック (CG) 向け半導体製造の ATI テクノロジーズを約 55 億ドルで買収する計画だと言う。21 日引け後に明らかにした。

#### 6. 債券に強気コメント。

債券ファンド最大手、パシフィック・インベストメント・マネジメント (PIMCO) の投資責任者ビル・グロス氏は、米国債市場に強気相場がやってきたとコメント。利上げ中止により 2 年債などが上昇すると見込みで、短期債を購入してきたとしている。

UBS 証券によると、7 月末から 10 月第 1 週の間の 10 年物米国債価格は、過去 18 年のうち 14 年で上昇した。1987 年以来の平均で、利回りはこの 10 週間に 30 ベーシスポイント低下していると言う。UBS は 21 日付のレポートで、10 年債は今日から季節的な上昇期に入る。これは 10 月第 1 週まで続くと指摘。

RBS グリニッチ・キャピタルによると、5 月から 9 月半ばにかけての米 10 年債利回りは過去 6 年に、平均で約 51 ベーシスポイント低下していると言う。

#### 7. UAL (UAUA)

ユナイテッド航空の親会社 UAL が 24 日発表した第 2 四半期 (4 - 6 月) 決算の暫定集計値によると、四半期ベースで黒字を計上した。同暫定値はアナリスト予想を上回る結果だった。

#### 8. HCA (HCA)

米病院経営で最大手の HCA は 24 日、米投資会社のペイン・キャピタルとコーラルバーグ・クラビス・ロパーツ (KKR)、メリルリンチの 3 社に 213 億ドルで身売りすることで合意したと発表した。

9. ノバゴールド・リソーシズ (NG)

産金最大手、カナダのパリック・ゴールドは 24 日、同業の加ノバゴールド・リソーシズに対し、現金約 12 億 9000 万ドルでの買収案を提示した。買収価格は 1 株当たりで 14.50 ドルに相当。これは 7 月 21 日時点でのノバゴールドの株価終値と比べて 24% の上乘せとなる。

10. ハスプロ (HAS)

がん具メーカー世界 2 位の米ハスプロが 24 日発表した第 2 四半期 (4 - 6 月) 決算は、売上高が 5 億 2780 万ドルとなった。予想では、5 億 1690 万ドルが見込まれていた。

11. アメラダ・ヘス (HES)

英メジャー (国際石油資本) の B P、インドネシア最大の上場石油会社メドコ・エネルギー・インターナショナル、米石油大手アメラダ・ヘスがそれぞれインドネシアで運営するガス合併事業は、総額 15 億ドル相当の天然ガスを国内の公益会社と肥料工場に売却することで合意した。

12. モトローラ (MOT)

携帯電話端末メーカー 2 位のモトローラは 24 日、従来の自社株買い戻し計画を約 2 年前倒しで完了したことに伴い、新たに 45 億ドル相当の自社株買いを実施する計画を明らかにした。新たに設定する 45 億ドルの自社株買い戻し計画は、発行済み全株式の約 9% に相当する。期間は 3 年。

13. ライス米国務長官は 24 日、レバノンの首都ベイルートを電撃訪問し、同国のシニオラ首相と会談。中東の紛争が人道の危機に悪化することに懸念を表明。同長官はこの後イスラエルを訪問し、オルメルト首相と会談する。またブッシュ政権はレバノンに対する援助を約束した。一方、ホワイトハウスのトニー・スノー報道官はワシントンで、米国はレバノンに対して、大規模な人道的援助を計画していると話した。報道官によると、援助は 25 日にも現地に届き始める可能性がある。

14. 米民間調査機関のコンファレンス・ボードが 25 日に発表した 7 月の米消費者信頼感指数は 106.5 (前月 105.4) と、予想 (104.0) を上回った。雇用と所得の伸びが寄与した。

(エコノミストの 1 評価)

今回は上昇しているが、消費減速傾向ははっきりしている。この指数と、消費との相関度は最近ますます低下しているから、あまり重きを置かなくても良いだろう (MFR のシャピロ氏)。

(消費者信頼感統計項目別動向)

今後6カ月間で雇用が増えるとの回答は14.4%(前月15.6%)と、3月(13.7%)以来の最低。また、所得増加を見込む回答は17.7%(前月17.8%)だった。

15. ロッキード・マーチン(LMT)

航空・宇宙関連最大手のロッキード・マーチンが25日寄り前業績発表。第2四半期(4-6月)の決算は、前年同期比26%の増益となった。政府向けコンピューター・サービスと衛星関連機器の販売増加が貢献。同社はさらに、今年の利益見通しを上方修正した。

**第2四半期(4-6月期)実績**

売上高...99億6000万ドル(コンセンサス予想は97億6000万ドル)

1株当たり利益...1.31ドル(コンセンサス予想は1.16ドル)

増収率...7.2%

増益率...26%

(部門別増収率)

宇宙事業...21億ドル(29%増)

航空事業...28億2000万ドル(2.1%減)

システム&IT部門...50億4000万ドル(5.3%増)

**2006年通期ベース・ガイダンス**

売上高...385億ドル~395億ドル(コンセンサス予想は394億ドル)

1株当たり利益...5.10~5.30ドル(コンセンサス予想は4.93ドル)

16. エンカナ(ECA)

サンドタールからの石油生産会社である同社が本日寄り前業績発表。予想を上回る好決算だった。

**第2四半期(4-6月期)実績**

売上高...38億4000万ドル(コンセンサス予想は28億7200万ドル)

1株当たり利益...0.98ドル(コンセンサス予想は0.86ドル)

増収率...12%

増益率...2倍以上

(同社側コメント)

キャッシュフローは18億ドルとなった(一株当たり2.15ドル)。

### 17. AT&T (T)

米通信大手 AT&T が 25 日寄り前業績発表。第 2 四半期 (4 - 6 月) 決算は、合併効果に支えられ、前年同期比 81% 増益となった。同社は今年の費用削減計画を最大 9 億ドルと、従来の 7 億ドルから上方修正した。同社売上高は、合併により獲得した高速インターネット事業と米携帯電話サービス大手シンギュラー・ワイヤレスが貢献した。また、100 億ドル相当の自社株買い計画の実施を加速し、今年の買い戻し額を 20 億 - 30 億ドルとし、従来計画していた最大 20 億ドルから引き上げた。

#### 第 2 四半期 (4 6 月期) 実績

売上高...246 億 6000 万ドル (コンセンサス予想は 212 億 7000 万ドル)  
 1 株当たり利益...0.58 ドル (コンセンサス予想は 0.53 ドル)  
 増収率...53%  
 増益率...81%

#### (主要部門売上高)

ワイヤレス...148 億ドル  
 エンタープライズ...44 億ドル

#### (同社側コメント)

2007 年終わりまでに、100 億ドル相当の自社株買いを行う。(2006 年では 20 億 ~ 30 億ドル相当)  
 2006 年における配当支払後のフリー・キャッシュフローは約 20 億ドル。  
 シングュラー・ワイヤレスへの新規加入は 150 万件。  
 2006 年における M&A からの節減額は 7 億 ~ 9 億ドルとなる。  
 第 2 四半期には、約 3600 名の人員削減を行った。

### 18. シカゴ商業取引所 (CME)

米最大の先物市場、シカゴ商業取引所 (CME) が 25 日寄り前業績発表。第 2 四半期 (4 - 6 月) の総収入は前年同期比 23% 増の 2 億 9530 万ドルと過去最高を更新した。純利益は 1 億 950 万ドル (1 株当たり 3.12 ドル) と、前年同期の 8220 万ドル (同 2.36 ドル) から増加。1 株当たり利益は 3.09 ドルと見込まれていた。総収入の予想値は、2 億 9360 万ドルだった。4 - 6 月期は CME 金利先物の 1 日当たりの取引が 330 万枚と過去最高となった。

### 19. アルトリア (MO)

たばこ大手フィリップ・モリスを傘下に持つ米アルトリア・グループが 25 日寄り前業績発表。第 2 四半期 (4 - 6 月) の売上高は前年同期比 4% 増の 258 億ドル。純利益は 27 億 1000 万ドル (1 株当たり 1.29 ドル) と、前年同期の 26 億 7000 万ドル (同 1.28 ドル) を上回った。1.37 ドルの利益が見込まれていた。予想売上高は 178 億 5900 万ドルだった。

たばこ製品「マルボロ」の値上げが貢献した他、食品部門のクラフトでも、肉製品とコーヒーの値上げが利益を支えた。ローゼンフェルド CEO は、クラフトの販売成長を加速し、最終的にスピノフ（分離・独立）に持ち込みたい考えだと言う。

20. マクドナルド (MCD)

ファストフード最大手のマクドナルドが 25 日寄り前業績発表。第 2 四半期（4 - 6 月）の売上高は前年同期比 9.4% 増の 55 億 7000 万ドル、純利益は 8 億 3410 万ドル（1 株当たり 67 セント）と、前年同期の 5 億 3040 万ドル（同 42 セント）を上回った。予想は、売上高が 54 億 5700 万ドル、1 株当たり利益が 67 セントだった。サッカーの世界カップ開催国ドイツで「ビッグ・マック」の販売キャンペーンを実施したことや、5 月のチポトルの株式売却で 1 株当たり利益が 10 セント押し上げられた。

21. ゼロックス (XRX)

米最大の複写機メーカー、ゼロックスが 25 日寄り前業績発表。第 2 四半期（4 - 6 月）の売上高は前年同期比 1.4% 増の 39 億 8000 万ドルだった。純利益は 2 億 6000 万ドル（1 株当たり 26 セント）と、前年同期の 4 億 2300 万ドル（同 40 セント）から減少。予想は、売上高が 39 億 5400 万ドル、1 株当たり利益が 23 セントだった。

22. テキサス・インスツルメンツ (TXN)

携帯電話向け半導体メーカー最大手の米テキサス・インスツルメンツ (TI) が 24 日引け後発表した第 2 四半期（4 - 6 月）決算は、売却益を除いたベースの 1 株利益は 47 セント。予想は同 45 セントだった。

23. サンディスク (SNDK)

携帯端末向けメモリーカードメーカーのサンディスクが 24 日引け後発表した第 2 四半期（4 - 6 月）決算は、1 株利益がストックオプションなどの費用を除いたベースで 58 セント、売上高は 7 億 1900 万ドルとなった。予想は、1 株利益が 44 セント、売上高は 6 億 8850 万ドルだった。

24. 米連邦準備制度理事会 (FRB) が 26 日、地区連銀報告 (ページブック) を発表。

(要旨)

全米で過去 1 カ月にわたり景気拡大が継続したものの、ベースは鈍化した。一方、消費者物価と賃金の上昇は緩やかだった。

地区連銀 12 行のうちサンフランシスコを含む 6 行が、全体的な経済成長率の低下を報告。同報告は住宅市場の減速を指摘するとともに、小売販売の伸びはほとんどの地域で勢いがなく、期待外れだったと記述。

インフレは地区や産業によっても異なる。項目によっては価格上昇圧力がみられ、今後もいくつかの項目ではさらなる高騰が予想されているにもかかわらず、最終財・サービスの価格の伸びは鈍じて穏やかだった。

#### 25. バイオジェン・アイデック (BIIB)

バイオテクノロジー企業のバイオジェン・アイデックが 26 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) 決算は、事業買収費用が響き、赤字となった。多発性硬化症 (MS) 治療薬「アボネックス」の販売が同 12% 増加して 4 億 2900 万ドルとなったことが貢献した。

##### 第 2 四半期 (4 6 月期) 実績

売上高...6 億 6000 万ドル (コンセンサス予想は 6 億 3600 万ドル)

1 株当たり利益...0.57 ドル (コンセンサス予想は 0.49 ドル)

増収率...9%

##### (主要薬品売上高)

アボネックス...4 億 2900 万ドル (12%増)

リツキサン...2 億 3600 万ドル (11%)

##### 2006 年通期ベース・ガイダンス

1 株当たり利益...1.95 ~ 2.10 ドル (コンセンサス予想は 2.04 ドル)

#### 26. ゼネラル・モーターズ (GM)

ゼネラル・モーターズが 26 日発表した 2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) 決算は、純損益が 32 億ドルの赤字となった。早期退職勧奨制度で 37 億ドルの一時費用を計上した。ただ、営業ベースでは市場予想を上回る黒字を確保。

1 株当たりの最終損失は 5.62 ドル。前年同期の純損失は 9 億 8700 万ドル (1 株当たり 1.75 ドル) だった。営業ベースでの利益は 12 億ドルとなった。一時費用を除けば、全世界での自動車事業は 2004 年以來で初めて黒字を確保した。GM の手元資金および取引可能な証券は 229 億ドルと、前年同期の 202 億ドルから増えた。GMAC の 4 - 6 月期の純利益は 8 億 9800 万ドルで過去最高を記録。住宅ローンが好調だった。GM は同部門の株式 51% の売却完了を年末までに予定している。

##### 第 2 四半期 (4 6 月期) 実績

売上高...544 億ドル (コンセンサス予想は 425 億 9000 万ドル)

1 株当たり利益...2.03 ドル (コンセンサス予想は 0.55 ドル)

増収率...12%

(スタンダード・アンド・プアーズの評価)

特に平均取引価格が上昇しているのは力強い。ただ、原油価格の上昇と、GMが依然としてSUV(スポーツ型多目的車)に依存していることを考えると、この業績改善を維持することは難しくなると指摘した。

#### 27. サン・マイクロシステムズ(SUNW)

サーバー・メーカーのサン・マイクロシステムズが 25 日引け後業績発表。第 4 四半期(4 - 6 月)決算は、人員削減費用が響き赤字となった。ただ新製品に対する需要は強く、売上高を後押しした。

##### 第 4 四半期(4 - 6 月期)実績

売上高...38 億 2800 万ドル(コンセンサス予想は 36 億ドル)

1 株当たり利益...0.02 ドルの損失(コンセンサス予想は 0.03 ドルの損失)

増収率...29%

(同社側コメント)

2007 財務年度は、受注残 10 億ドル以上でのスタートとなる。

90 日間の構造的な見直しを行った。

第 4 四半期の製品販売は一年で最高水準となった。

第 1 四半期における売上高は、通常前四半期から 20%の減少を見せる。

#### 28. アンハイザー・ブッシュ(BUD)

ビール醸造最大手、アンハイザー・ブッシュが 26 日寄り前に業績発表。2006 年 4 - 6 月期(第 2 四半期)の売上高は 42 億 6000 万ドルと、前年同期比 5.9%増加した。純利益は 6 億 3780 万ドル(1 株当たり 82 セント)に達し、この 5 四半期で初めて前年同期比で増益となった。米国でのビール販売増加が業績を押し上げた。国内販売量は、「バド・ライト」にけん引されて前年同期比 2.2%増加した。海外販売量は同 19%の大幅増加。サッカーのワールド杯ドイツ大会の公式スポンサーを務めた効果が国外販売を押し上げた。予想は、売上高が 41 億 7400 万ドル、1 株当たり利益が 76 セントだった。

#### 29. コノフィリップス(COP)

米石油 3 位のコノフィリップスが 26 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月(第 2 四半期)の総売上高は前年同期比 13%増の 471 億ドル、純利益は 51 億 9000 万ドル(1 株当たり 3.09 ドル)と前年同期の 31 億 4000 万ドル(1 株当たり 2.21 ドル)を上回った。予想は、売上高が 531 億ドル、1 株当たり利益が 2.81 ドルだった。原油やガソリンの価格上昇に加え、他社買収に伴う生産能力の増強が寄与した。第 2 四半期の製油マージン(原油コストとガソリン、ディーゼル価格の差)1 バレル当たり平均約 16 ドルと過去最高に達した。原油価格が 1 ドル上昇するごとに、コノフィリップスの四半期利益は 5100 万ドル押し上げられた。

### 30. シマンテック (SYMC)

コンピューターウイルス対策ソフト最大手のシマンテックが 25 日引け後業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 1 四半期) 決算は、株式関連報酬のコストと会計手法の変更が響き、前年同期比 52% 減益となった。

#### 第 1 四半期 (4 6 月期) 実績

売上高...12 億 6000 万ドル (コンセンサス予想は 12 億 4000 万ドル)

1 株当たり利益...0.24 ドル (コンセンサス予想は 0.18 ドル)

増収率...79.9%

#### (同社側コメント)

大手銀行と数百万ドル規模の契約を結んだ。

35 億ドルを自社株買いに使用する。

補完的な企業の買収を探索して行く。

#### 第 2 四半期 (7 9 月期) ガインダンス

売上高...12 億 7500 万ドル ~ 13 億 500 万ドル

(コンセンサス予想は 12 億 9000 万ドル)

1 株当たり利益...0.26 ~ 0.27 ドル (コンセンサス予想は 0.21 ドル)

#### 2007 年通期ベース・ガインダンス

売上高...52 億 ~ 54 億ドル (コンセンサス予想は 53 億ドル)

1 株当たり利益...1.06 ~ 1.16 ドル (コンセンサス予想は 0.93 ドル)

31. 6 月の米製造業耐久財受注額は前月比 3.1% 増加 (前月は同 0.3% 増) し、予想 (2% 増) を上回る伸びとなった。一方、変動の大きい輸送用機器を除く受注は 6 月に前月比 1% 増加 (前月は同 1.5% 増) し、予想 (0.7% 増) を上回った。設備投資の先行指標となる航空機を除く非国防資本財受注は前月比 0.4% 増加 (前月 1.3% 増) した。

#### (項目別動向)

商業用航空機受注...前月比 8.8% 増加

輸送用機器受注...同 8.6% 増加

自動車受注...同 0.2% 増加

コンピューター・エレクトロニクス受注...同 3.4% 増加

通信機器受注...同 8.3% 増加

32. エクソンモービル (XOM)

石油最大手のエクソンモービルが 27 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月期 (第 2 四半期) 純利益は 104 億ドルと、前年同期の 76 億 4000 万ドルから増加した。エネルギー価格の上昇や増産が寄与した。売上高は予想を下回ったが、利益が予想を大幅に上回った。

**第 2 四半期 (4 6 月期) 実績**

売上高...990 億ドル (コンセンサス予想は 1115 億 9000 万ドル)

1 株当たり利益...1.72 ドル (コンセンサス予想は 1.64 ドル)

増収率...12%

増益率...36%

(同社側コメント)

第 3 四半期での自社株買いを 70 億ドルに引き上げる。

一日当たりの原油生産高は 9.4%増加し、270 万バレルとなった。

原油と天然ガスによる売上高は 45%増の 71 億ドル。

33. コムキャスト (CMCSA)

ケーブルテレビ (CATV) 最大手のコムキャストが 27 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) 決算は、前年同期比で 7%増益となった。市場予想以上にデジタル電話サービス加入者数が増えた。同社は売上高見通しを上方修正した。4 - 6 月期のデジタル電話サービス加入者数は 30 万 6000 人増え、予想 (25 万 1000 人) を上回った。

**第 2 四半期 (4 6 月期) 実績**

売上高...62 億 2800 万ドル (コンセンサス予想は 61 億 3000 万ドル)

1 株当たり利益...0.22 ドル (コンセンサス予想は 0.20 ドル)

増収率...11%

粗利率...7%

(同社側コメント)

2006 年におけるケーブル事業での増収率は 10~11%となり、営業キャッシュフローは最低でも 13%増加する。

2006 年では、デジタル・フォンへの加入者が 130 万~140 万件となる。

**2006 年通期ベース・ガイダンス**

増収率...10~11% (これまでのガイダンスは 9~10%)

34. 債券投信大手のパシフィック・インベストメント・マネジメント（PIMCO）のビル・グロス氏は 27 日、FRB が利上げを終了したため、米国債相場の上昇は数年続くとの見通しを示した。米国の住宅価格は多くの地域で下落しつつあり、個人消費の足かせになるだろうと分析。また、金利はピークに達したとの認識を示し、債券の強気相場が緩やかに、さらにその後数年はより急速に進行するだろうとの見方を示した。

**ベア材料**

1. バーンズ・アンド・ノーブル（BKS）

米最大の書店チェーン、バーンズ・アンド・ノーブルは、同社のストックオプション付与方法について米証券取引委員会（SEC）が非公式の調査を行っていることを明らかにした。

2. 中国国営の新華社通信が 24 日報じたところによると、同国の胡錦濤国家主席は、下期（7 - 12 月）に景気抑制策を強化し、エネルギーを消費し環境を汚染する産業のやみくもな成長を抑える必要があるとの見解を示した。同主席はさらに、固定資産投資を控える必要性にも言及した。更に、輸出入の均衡を図るべきだと指摘。また、農家と都市部の低・中所得者を中心とした内需促進策が必要だとの見方も示した。

3. 6 月の中古住宅販売件数は前月比 1.3%減の 662 万戸（前月 671 万戸）と、予想（660 万戸）を上回った。

ただし、6 月の住宅価格（中央値）は 23 万 1000 ドルと、前年同月比 0.9%上昇（5 月は 5.5%上昇）にとどまった。グリーンズパン前 FRB 議長が住宅市場をフロスと表現した 2005 年に住宅価格は全国平均で 2 ケタの上昇を示し、同年 10 月には 17%急騰していた。

（エコノミストの 1 評価）

このデータを見ると、ゆっくりとしたペースでの住宅市場減速がうかがえる（MFR のシャピロ氏）。

4. アバイア（AV）

オフィス用通信機器米最大手アバイアの第 3 四半期（4 - 6 月）は 24 日引け後、前年同期比 77%減益になったと発表。同社はまた、最高経営責任者（CEO）の交代を発表した。

5. ネットフリックス（NFLX）

オンラインのレンタル映画サービス会社ネットフリックスは 24 日引け後、第 3 四半期（7 - 9 月）売上高は 2 億 4900 万 - 2 億 5400 万ドルとの見通しを示した。予想は 2 億 5830 万ドルだった。

## 6. デュボン (DD)

米化学3位のデュボンが25日寄り前業績発表。第2四半期(4-6月)決算は、純利益が前年同期比3.9%減となった。農業関連収入が減少、石油など関連原材料コストが上昇した。

### 第2四半期(4-6月期)実績

売上高...78億4000万ドル(コンセンサス予想は78億5000万ドル)

1株当たり利益...1.01ドル(コンセンサス予想は0.93ドル)

### (同社側コメント)

第2四半期には2工場を閉鎖し、今年にはさらに2つのスペイン工場を閉鎖する予定。

2006年後半には、農業関連での利益が増加する。

製品価格の上昇率が2%となった。

### 2006年通期ベース・ガイダンス

1株当たり利益...2.85ドル(コンセンサス予想は2.86ドル)

## 7. 3M (MMM)

米化学大手の3Mが25日寄り前業績発表。第2四半期(4-6月)決算は、前年同期比で17%増益となった。産業向けやヘルスケア製品が好調だったものの、光学フィルム生産コストが利益の伸びを抑えた。

### 第2四半期(4-6月期)実績

売上高...56億9000万ドル(コンセンサス予想は56億7800万ドル)

1株当たり利益...1.05ドル(コンセンサス予想は1.07ドル)

増収率...7.4%

増益率...17%

### (部門別増収率)

インダストリアル&トランスポーテーション...11.4%

ヘルスケア...4.4%

ディスプレイ&グラフィック...6.9%

コンシューマー&オフィス...5.1%

コミュニケーション...6.5%

### (同社側コメント)

オプティカル・フィルムの在庫整理による悪影響が見られた。

LCDテレビ市場による季節的サイクルへの以降が見られる。

オプティカル・フィルム分野を除けば、成長率は予想通りである。

オプティカル・フィルムは、依然として高成長の見込める分野である。

**第3四半期(7-9月期)ガイダンス**

1株当たり利益...1.10~1.15ドル(コンセンサス予想は1.16ドル)

**2006年通期ベース・ガイダンス**

1株当たり利益...4.55~4.65ドル(コンセンサス予想は4.54ドル)

**8. コルゲート (CL)**

世界最大の歯磨き剤メーカー、コルゲート・パルモリブが25日寄り前業績発表。第2四半期(4-6月)の売上高は30億1000万ドルと、前年同期の28億4000万ドルから増加した。純利益は2億8360万ドル(1株当たり51セント)と、前年同期の3億4290万ドル(同62セント)を下回った。再編費用を除いたベースの1株利益は74セント。予想1株当たり利益は72セントだった。ただし、予想売上高は29億6047万ドルだった。

**9. レックスマーク (LXK)**

米プリンター2位のレックスマーク・インターナショナルが25日寄り前業績発表。第2四半期(4-6月)の売上高は4.2%減の12億3000万ドル、純利益は7670万ドルと、前年同期の7990万ドルから減少。ただ、1株当たり利益は74セントと、同64セントを上回った。一時的な項目を除いた1株当たり利益は1.07ドルとなり、予想(84セント)を上回った。また、予想売上高は12億2300万ドルだった。レックスマークはまた、7-9月期の最終ベースの1株当たり利益について49-59セントの見込みとし、リストラ費用を除いたベースでは65-75セントとの見方を示した。このベースでの予想は78セントだった。

10. ヘッジファンドマネジャーのブーン・ピケンズ氏は25日、原油価格が向こう1年以内に1バレル当たり100ドルに到達するとの見通しを示した。向こう1年間で世界的なリセッションが起こりでもしないかぎり、価格は100ドルに達するだろう。今現在が需要減少につながる水準にあるとは思えないとコメント。

11. 中国国家発展改革委員会の韓永文報道官は25日、経済成長率が低下し始めなければ、中国政府が景気抑制策を強化する可能性があるとした。また、中国国家統計局は25日ウェブサイトに掲載した声明で、中国が外貨準備の多様化を一段と進め、ドル安によって損失を被るリスクを軽減する必要があるとの考えを示した。

統計局はまた、人民元の上昇観測が投機的な「ホットマネー」の流入を招いているとしている。声明によれば、こうした資金の流入額は5月に125億ドルとなり、2月に比べ12倍に増えた。

12. 米政府がヘッジファンドに対する監視を強化する一方、米上院では1兆2000億ドルに上る資産を運用する同業界の監督強化が検討されている。米財務省は、過去5年で資産が倍増したヘッジファンド業界と金融市場への影響に関する調査に今月着手した。  
また、米証券取引委員会（SEC）のクリストファー・コックス委員長は25日、米上院銀行委員会で証言し、ヘッジファンド規制は「不十分だ」と指摘、米議会はヘッジファンド業界の監督体制強化につながる法案を可決せざるを得なくなるかもしれないと述べた。
13. ユナイテッド・パーセル・サービス（UPS）  
小荷物配送最大手のユナイテッド・パーセル・サービス（UPS）が25日寄り前業績発表。第2四半期（4 - 6月）の売上高は前年同期比15%増の117億ドル。純利益は10億6000万ドル（1株当たり97セント）と前年同期の9億8600万ドル（1株当たり88セント）を上回った。予想1株当たり利益は1ドルだった。1月時点でのUPS予想は1株当たり利益で0.97 - 1.01ドルだった。予想売上高は116億1400万ドルだった。2006年通期見通しについては、1株当たり利益を前年比11 - 16%増の3.85 - 4.03ドルと見込んでいる。このベースの予想は3.98ドルだった。
14. レッグ・メーソン（LM）  
米投資信託会社レッグ・メーソンが25日寄り前に発表した第1四半期（4 - 6月）決算は、1株当たり利益が1.08ドルとなった。1株当たり利益の予想平均は1.13ドルだった。
15. アトメル（ATML）  
米半導体メーカーのアトメルは25日、第2四半期（4 - 6月）決算の発表を延期したことを明らかにした。ストックオプションの付与に関して内部調査が実施されているためとしている。
14. ゲートウェイ（GTW）  
格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）は24日、S&P500指数の構成銘柄に、多角経営企業センダントからスピンオフされた不動産会社リアロジーとホテル・チェーンのウィンダム・ワールドワイドの2社を採用すると発表した。代わって、センダントと、パソコンメーカーで米3位のゲートウェイを構成銘柄から除外する。
15. レベル3コミュニケーションズ（LVLT）  
米高速データ通信のレベル3コミュニケーションズが25日寄り前業績発表。第2四半期（4 - 6月）決算は、1株当たり純損失が23セントに拡大した。予想は、1株当たり損失21セントだった。

16. ボーイング (BA)

世界 2 位の航空機メーカー、ボーイングが 26 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) 決算は、3 年ぶりの赤字となった。国防総省の購買不祥事に関する経費と、軍用機引き渡しの遅れに絡んだ費用の計上が響いた。ボーイングは、費用増加を反映し、今年通期の 1 株利益見通しを少なくとも 2.40 ドルに引き下げた。また売上高は最大 605 億になる見通し。また同時に 2007 年業績について、1 株当たりの通期利益見通しを従来見通しから 15 セント引き上げ、4.25 - 4.45 ドルとした。売上高は約 655 億ドルとなる見通し。予想は、1 株利益が 4.2 - 4.8 ドル、売上高が 654 億ドルだった。

17. アマゾン・ドット・コム (AMZN)

インターネット通販最大手アマゾン・ドット・コムが 25 日引け後業績発表。第 2 四半期 (4 - 6 月) の決算は、技術やコンテンツ投資と、玩具関連のコストが響き、前年同期比 58% 減益となった。米玩具小売りのトイザラスとの契約をめぐる係争での敗退は、同社の利益見通し引き下げにつながった。

**第 2 四半期 (4 6 月期) 実績**

売上高...21 億 4000 万ドル (コンセンサス予想は 21 億ドル)  
 1 株当たり利益...0.05 ドル (コンセンサス予想は 0.07 ドル)  
 増収率...22%

**第 3 四半期 (7 9 月期) ガインダンス**

売上高...21 億 7000 万ドル~23 億 3000 万ドル  
 (コンセンサス予想は 22 億 1000 万ドル)

**2006 年通期ベース・ガインダンス**

売上高...101 億 5000 万ドル~106 億 5000 万ドル  
 (コンセンサス予想は 101 億 4000 万ドル)

18. コーニング (GLW)

液晶表示装置 (LCD) 用ガラス基板メーカー最大手のコーニングが 25 日引け後業績発表。第 2 四半期 (4 - 6 月) の決算は、純利益が前年同期の 3 倍強に増えたが、同社が示した第 3 四半期 (7 - 9 月) 業績見通しは予想を下回った。韓国の LG フィリップス LCD や台湾の友達光電 (AUO) などの LCD メーカーの出荷見通しの下方修正が響いている。コーニングのディスプレイ技術部門の売上高は前期比で 16% 減少し、4 億 6100 万ドルだった。コーニングは今年のガラス基板市場の規模について、前年比 40 - 50% 増との予想を据え置いた。また、世界のテレビ市場に占める液晶テレビの割合が、今年 20% に達するとの見通しを示した。

**第2四半期(4-6月期)実績**

売上高...12億6000万ドル(コンセンサス予想は13億2000万ドル)  
 1株当たり利益...0.26ドル(コンセンサス予想は0.25ドル)  
 増収率...11%

**(部門別増収率)**

ディスプレイ・テクノロジー...4億6100万ドル(11%増)  
 テレコミュニケーションズ...4億7200万ドル(19%増)

**(同社側コメント)**

フリー・キャッシュフローは2億9900万ドルとなった。

**第3四半期(7-9月期)ガイダンス**

売上高...12億6000万ドル~13億3000万ドル  
 (コンセンサス予想は14億500万ドル)  
 1株当たり利益...0.22~0.26ドル(コンセンサス予想は0.28ドル)

**19. アフラック(AFL)**

医療保険販売のアフラックが25日引け後業績発表。2006年第2四半期(4-6月)の純利益は4億800万ドル(1株当たり81セント)。前年同期は3億3600万ドル(同66セント)だった。投資評価の変更の影響を除いたベースの1株利益は75セントで、予想(71セント)を上回った。保険料収入が支払い請求や経費を上回る伸びとなった。ただ主力市場の日本では、2四半期連続で販売が減少した。日本ではがん保険などの医療保険を販売する企業数が2001年の規制緩和以降2倍強に増加している。会社側は、現在の市場環境を考えると、アフラックの日本での販売は、年内は横ばいから1けた台の減少になる可能性が高いだろうとの見通しを示した。通期は5-8%の伸びになるとのガイダンスだった。

**20. 全米抵当貸付銀行協会(MBA)が26日発表した21日までの1週間の住宅ローン申請指数は、前週比で1.3%低下し533.8となった。住宅ローン30年物固定金利は6.69%と前週の6.73%から低下したが、前年同時期の水準を約1ポイント上回っている。**

**(その他主要指数動向)**

購入指数...2.4%下げて389.0となった。  
 借り換え指数...0.6%上昇し1385.2となった。

21. ルーセント・テクノロジー (LU)

米通信機器メーカー最大手のルーセント・テクノロジーが 26 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 3 四半期) の売上高は前年同期比 12% 減少して 20 億 5000 万ドルとなった。これら数値は、ルーセントが 7 月 10 日に発表した暫定集計決算と同水準となった。純利益は 7900 万ドル (1 株当たり 2 セント) と、前年同期の 3 億 7200 万ドル (同 7 セント) と下回った。予想は、売上高が 21 億 4800 万ドル、1 株当たり利益が 2.6 セントだった。

22. 6 月の新築一戸建て住宅販売は、前月比 3% 減の年率 113 万 1000 戸となり、予想 (115 万戸) を下回った。また、販売価格中央値は前年比 2.3% 上昇と、少なくとも過去 1 年間で最小の上昇にとどまった。6 月末の住宅在庫は 56 万 6000 戸と、過去最高水準に達しており、前月の 56 万 2000 戸からも増加した。新築住宅の在庫比率は 6 月に 6.1 カ月分 (前月 5.9 カ月分) だった。

23. ダウ・ケミカル (DOW)

米化学最大手のダウ・ケミカルが 27 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) の決算は、純利益が前年同期比 19% 減となった。原油高に伴う原材料価格コストの負担増が背景。ダウ・ケミカルは製品価格を 5% 引き上げたものの、8 億ドル相当の原材料値上がり分とエネルギー費増加を補うまでには至らなかった。

**第 2 四半期 (4 6 月期) 実績**

売上高...125 億ドル (コンセンサス予想は 120 億 8000 万ドル)  
 1 株当たり利益...1.05 ドル (コンセンサス予想は 1.13 ドル)  
 増収率...9.2%

**(部門別増収率)**

パフォーマンス・プラスチック...34 億 4000 万ドル (13% 増)  
 パフォーマンス・ケミカル...19 億 7000 万ドル (5% 増)  
 農業サイエンス...9 億 6200 万ドル (7% 減)  
 ベーシック・プラスチック...29 億 9000 万ドル (16% 増)  
 ベーシック・ケミカル...14 億 2000 万ドル (5% 増)

24. エトナ保険 (AET)

米医療保険 3 位のエトナが 27 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) の総収入は 63 億ドル、純利益は 3 億 8950 万ドル (1 株当たり 67 セント) と、前年同期の 3 億 9490 万ドル (同 65 セント) から減少。予想は、1 株当たり利益が 64 セント、売上高が 62 億 2400 万ドルだった。ただし、同社はコスト制御がうまく出来なかったことをコメントした為、株価は下落。

25. ケロッグ (K)

米シリアル食品最大手のケロッグが 27 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月期 (第 2 四半期) の売上高は前年同期比 7.2% 増の 27 億 7000 万ドルと、前年の 25 億 9000 万ドルから増加した。純利益は 2 億 6650 万ドル (1 株当たり 67 セント) と、前年同期の 2 億 5900 万ドル (同 62 セント) を上回った。予想は、売上高が 26 億 9600 万ドル、1 株当たり利益が 65 セントだった。2006 年通期の 1 株当たり利益は 2.45 ~ 2.49 ドルになると言う。同社は従来製品よりもスーパーマーケットでの販売量が多い新製品を対象に、販売促進戦略を拡大した。また売上増で、燃料や原材料の費用上昇を乗り切った。ただし、もっと高い予想も出ていた為、株価が下落。

26. マイクロソフト (MSFT)

ソフトウエア最大手、マイクロソフトのジョンソン共同社長は 27 日、アナリストに対し、次期基本ソフト (OS) 「ウィンドウズ・ビスタ」の出荷は準備が整い次第開始すると述べたが、納期に間に合わせるとの確約はしなかった。これを受けて投資家の間では、ビスタの出荷が再度延期されるとの懸念が広がった。

27. ジャナス (JNS)

米投資信託会社ジャナス・キャピタル・グループが 27 日寄り前業績発表した。2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) の総収入は前年同期比 12% 増の 2 億 3310 万ドル、純利益は 3110 万ドル (1 株当たり 15 セント) と、前年同期の 2570 万ドル (同 12 セント) から増加した。ただし、予想 1 株当たり利益は 16 セントだった。

28. 中国の外国為替取引では 27 日、人民元がドルに対し、約 1 年前の切り上げ以来の最高値を更新した。米上院議員が、今年 9 月までに中国が元上昇ペース加速を容認しない場合は、中国の輸出に対し制裁を発動する法案の成立を目指すことと述べたことで人民元が売られた。チャールズ・シューマー (民主党)、リンゼー・グラム (共和党) 両上院議員は 26 日、ポールソン米財務長官に対し、人民元上昇のペースが加速しない場合は、米国に輸入される中国製品に対し 27.5% の制裁関税を発動する法案の成立を目指す意向を伝えた。

29. ポストン・サイエンティフィック (BSX)

米医療機器大手、ポストン・サイエンティフィックが 27 日寄り前業績発表。2006 年 4 - 6 月 (第 2 四半期) の売上高は 21 億 1000 万ドル、赤字が過去最高の 42 億 6000 万ドル (1 株当たり 3.21 ドル) となった。心拍機器大手ガイダントの買収で関連費用を計上したことが響いた。買収費用など一部費用を除いたベースの利益は、4 億 1200 万ドル (1 株当たり 31 セント) と、予想 (同 17 セント) のほぼ倍となった。一方、売上高は、予想 (21 億 5000 万ドル) を下回った。

30. バイデュ・ドット・コム (BIDU)

中国の検索サイト最大手、百度(バイデュ・ドット・コム)のADR(米預託証券)が急落。2006年7 - 9月(第3四半期)の売上高見通しが一部投資家の予想に届かなかったことが嫌気された。百度は26日引け後、7 - 9月期の売上高が2億3800万 - 2億4600万元になるとの見通しを示した。これは予想平均を上回っていたが、一部の投資家は予想平均を大幅に上回る数字を期待していた。

= 以上 =